

(2) 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)、つつが虫病及び日本紅斑熱 発生状況

1 重症熱性血小板減少症候群 (Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome : SFTS)

1-1. 疾患概要

2011 年に初めて中国で報告された、主に SFTS ウイルスを保有しているマダニに咬まれることによって引き起こされる感染症。

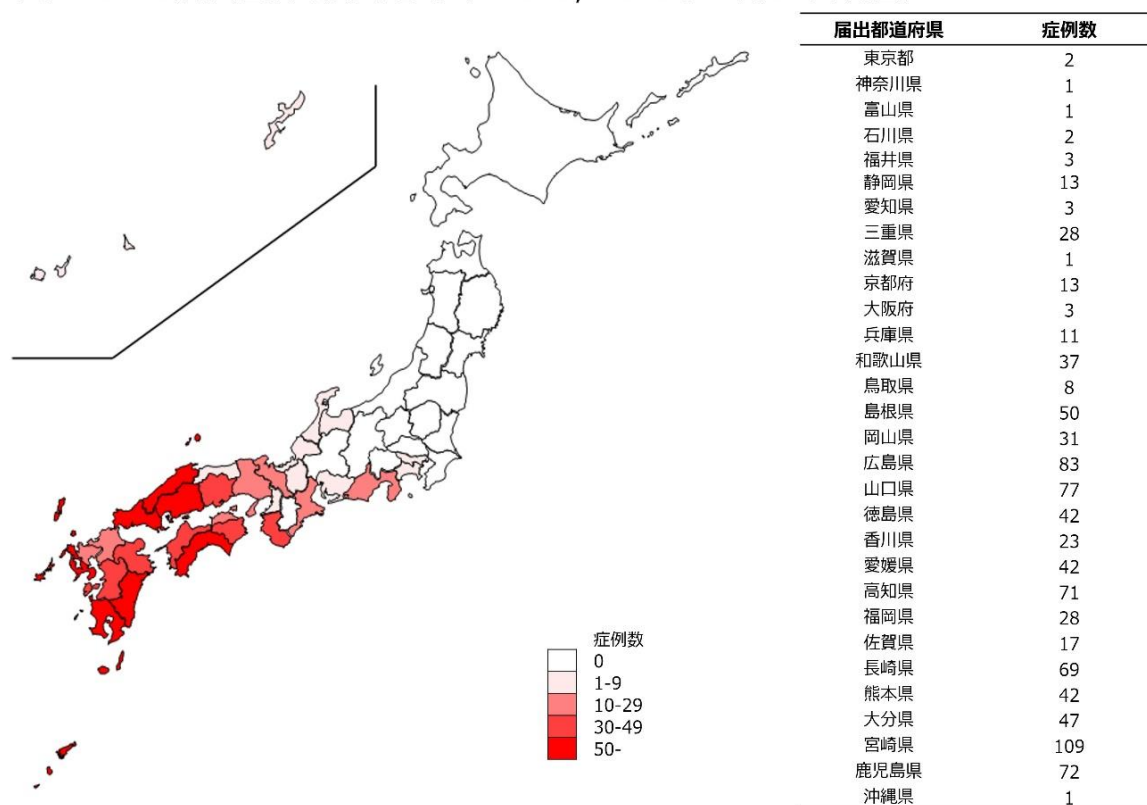
マダニに咬まれてから 6 日～2 週間程度の潜伏期間を経て、主に発熱、消化器症状がみられ、時に頭痛、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹、呼吸不全症状、出血症状が出現する。致死率は 10～30% 程度である。

予防法として、マダニに咬まれないようにすることが重要な予防法となる。4 類感染症指定疾患。

1-2. SFTS の発生状況

(1) 全国での発生状況 (平成 25 年 3 月届出開始以降令和 5 年 10 月 31 日までの報告数)

図2. SFTS届出症例の届出地域 (n=930, 2023年10月31日現在)



【出典】国立感染症研究所ホームページ

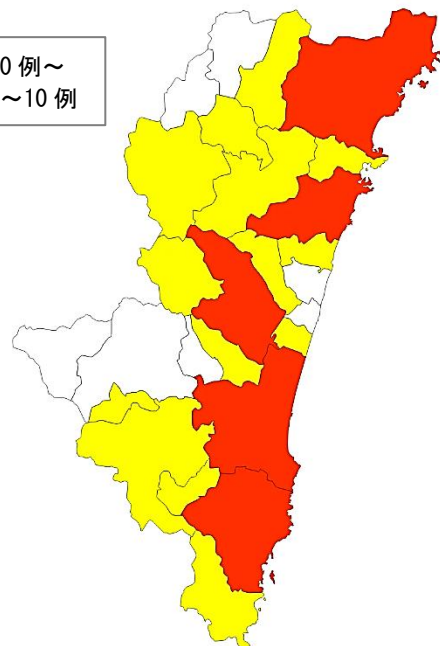
(2) 県内での SFTS 発生状況、患者疫学調査結果

(平成 25 年 3 月届出開始以降令和 5 年 12 月 31 日まで)

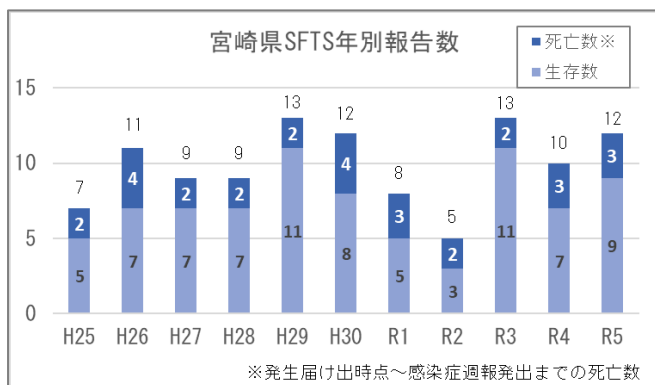
●患者居住地別発生数

市町村名	発生数	市町村名	発生数
宮崎市	27	新富町	1
都城市	3	西米良村	2
延岡市	13	木城町	1
日南市	16	川南町	0
小林市	0	都農町	4
日向市	10	門川町	3
串間市	2	諸塚村	1
西都市	11	椎葉村	1
えびの市	0	美郷町	4
三股町	1	高千穂町	0
高原町	1	日之影町	2
国富町	3	五ヶ瀬町	0
綾町	0	県外	3
高鍋町	0	合計	109

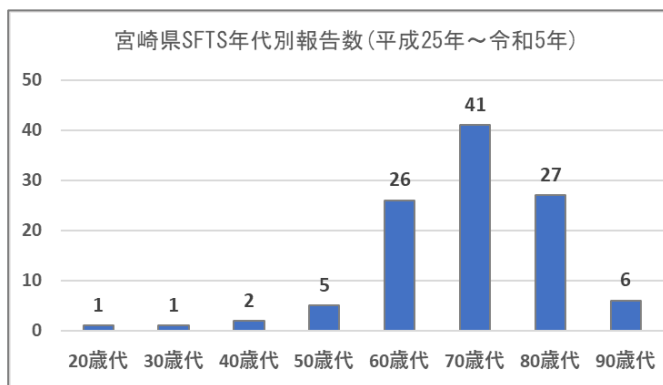
赤：累積 10 例～
黄：累積 1～10 例



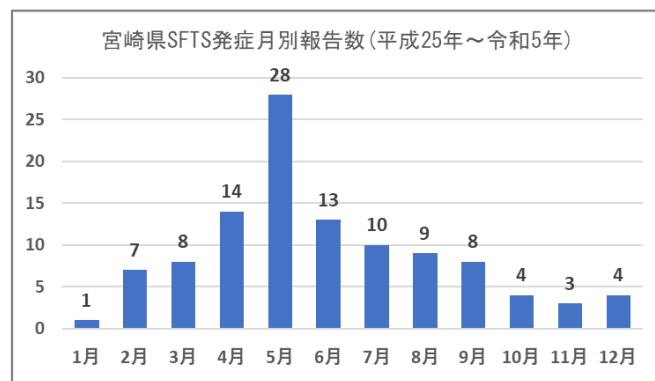
●年別報告数



●年代別報告数

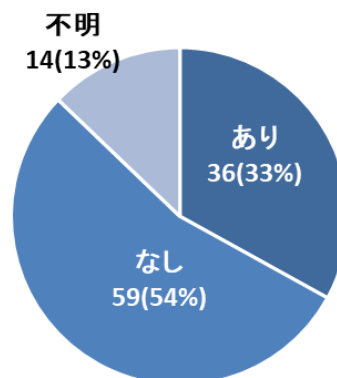


●発症月別報告数



●刺し口の有無

宮崎県SFTS 刺し口の有無
(平成25年～令和5年)



●患者の野外作業・動物との接触歴

- ・山や竹藪で作業（林業、山の手入れ、山菜・たけのこ採り）
- ・田んぼや畑で作業（家から離れた畑、自宅敷地内の畑（家庭菜園）、草むしり）
- ・産業動物の世話（牛、鶏、山羊）
- ・草があるような場所（あぜ道、川沿い）で散歩
- ・動物飼育歴（イヌ、ネコ等。屋内外含む）

<参考> ペット等からの感染事例について

●国内のネコ・イヌにおける SFTS 発生状況

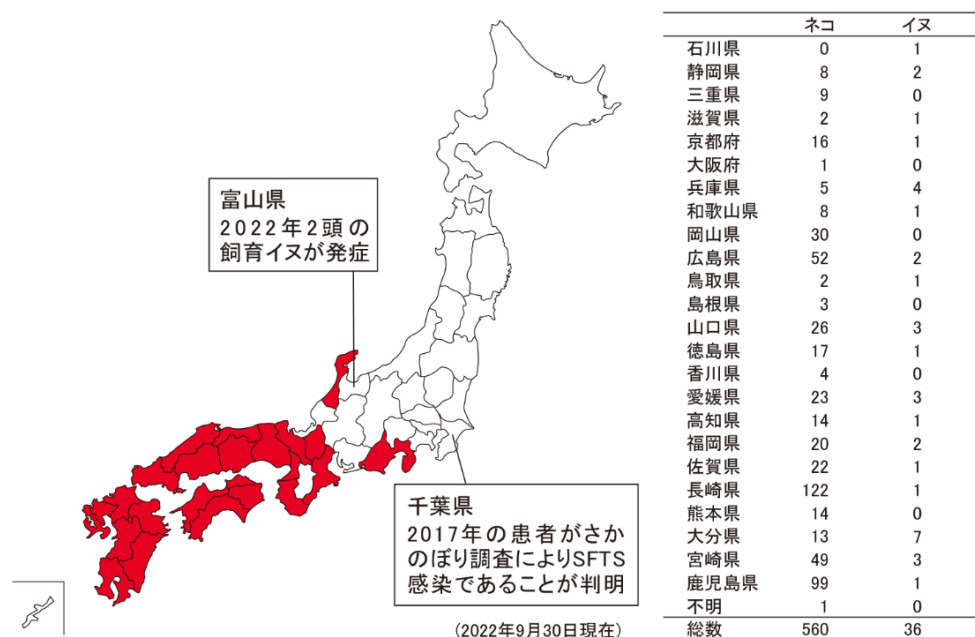


図. 国内のネコおよびイヌにおけるSFTSの発生状況

【出典】国立感染症研究所 病原微生物検出情報(IASR)2023年2月号

●県内

・令和4年3月

令和4年2月に SFTS を発症した患者について、疫学調査の結果、死亡した地域猫の血液に触れていたことが判明した。その後、宮崎大学医学部附属病院と産業動物防疫リサーチセンターの追跡調査により、この猫が SFTS ウイルスに感染していたことが判明し、発表された。
(令和4年3月18日 宮崎大学産業動物防疫リサーチセンター プレスリリース)

・令和5年5月

令和5年4月中に宮崎県内のネコで5件の SFTS ウイルス感染が確認され、県内で SFTS を保有するマダニが増加していることを示唆することが発表された。
(令和5年5月2日 宮崎大学産業動物防疫リサーチセンター プレスリリース)

2 つつが虫病

2-1. 疾患概要

つつが虫病リケッチア (*Orientia tsutsugamushi*) を保有するツツガムシに刺されることによって感染する感染症。

ツツガムシに刺されてから 5～14 日の潜伏期間を経て、全身倦怠感、食欲不振とともに頭痛、悪寒、発熱などを伴って発症する。発症 3～4 日目より不定型の発疹が顔面、体幹を中心に出現する。重症化した場合、肺炎や脳炎症状を来す。

4 類感染症指定疾患。

2-2. つつが虫病の発生状況

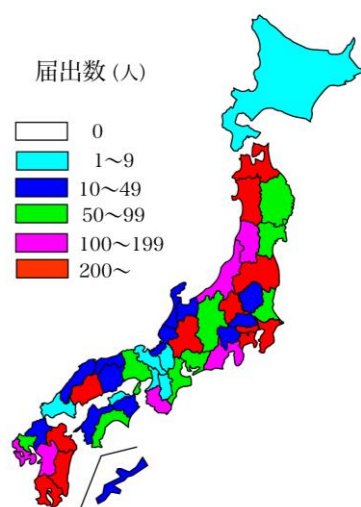
(1) 全国での発生状況

2001 年以降、毎年 300～500 例程度が届け出られている。

2007～2021 年における都道府県別届出数は、

鹿児島県が最多であり、次いで宮崎県、千葉県、福島県と続く。

つつが虫病の都道府県別届出状況,
2007～2021 年



【出典】 国立感染症研究所

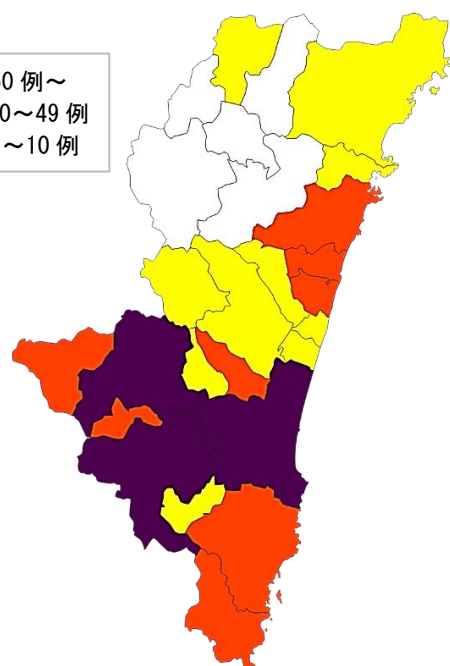
病原微生物検出情報 (IASR) 2022 年 8 月号

(平成 19 年から令和 3 年までの報告状況)

(2) 県内での発生状況 (平成 18 年から令和 5 年までの報告数)

市町村名	発生数	市町村名	発生数
宮崎市	92	新富町	1
都城市	157	西米良村	3
延岡市	1	木城町	1
日南市	47	川南町	18
小林市	128	都農町	33
日向市	21	門川町	2
串間市	43	諸塚村	0
西都市	9	椎葉村	0
えびの市	38	美郷町	0
三股町	9	高千穂町	1
高原町	26	日之影町	0
国富町	10	五ヶ瀬町	0
綾町	8	県外・不明	49
高鍋町	1	合計	698

紫 : 累積 50 例～
赤 : 累積 10～49 例
黄 : 累積 1～10 例



3 日本紅斑熱

3-1. 疾患概要

リケッチア・ジャポニカ (*Rickettsia japonica*) を保有するダニに刺されることによって感染するダニ媒介感染症。

ダニに刺されてから2～8日の潜伏期間を経て、発熱、四肢から体幹に広がる発疹を主訴とする。つつが虫病と臨床的に類似する。

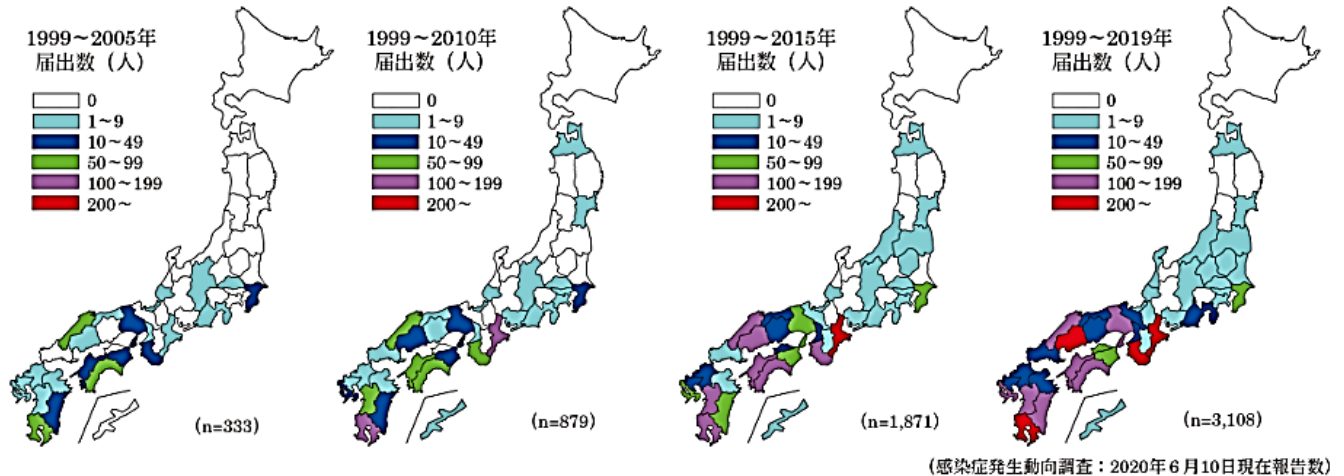
4類感染症指定疾患。

3-2. 日本紅斑熱の発生状況

(1) 全国での発生状況

2006年までは年間30～60例で推移していたが、その後増加傾向となり、2020年以降は年間400例を超える状況が続いている。

図2. 日本紅斑熱の都道府県別患者届出状況, 1999～2019年

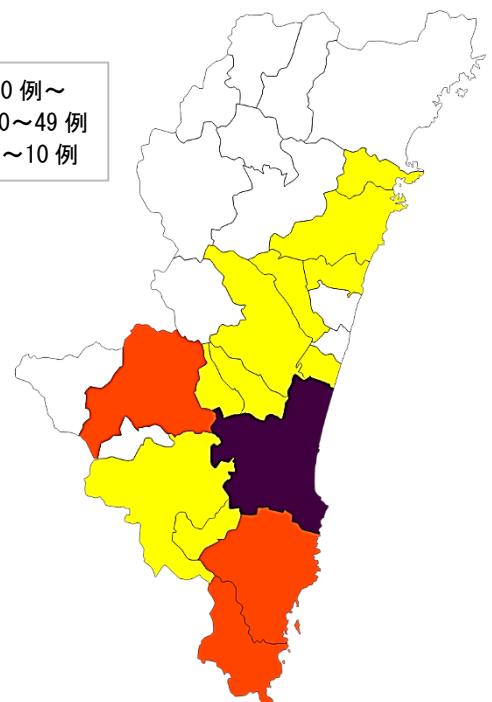


【出典】国立感染症研究所 病原微生物検出情報(IASR) 2020年8月号

(2) 県内での発生状況 (平成18年から令和5年までの報告数)

市町村名	発生数	市町村名	発生数
宮崎市	59	新富町	1
都城市	4	西米良村	0
延岡市	0	木城町	1
日南市	43	川南町	0
小林市	12	都農町	1
日向市	1	門川町	2
串間市	18	諸塚村	0
西都市	7	椎葉村	0
えびの市	0	美郷町	0
三股町	2	高千穂町	0
高原町	0	日之影町	0
国富町	3	五ヶ瀬町	0
綾町	5	県外	3
高鍋町	0	合計	162

紫：累積50例～
赤：累積10～49例
黄：累積1～10例



4 県における普及啓発の取り組み

●県政番組や新聞等

県政番組みやざきゲンキ TV や宮崎日日新聞内にて、SFTS の感染経路や症状、対策方法等を紹介。

●ポスター・リーフレットの配布（令和5年度）

保健所、観光協会、農業協同組合、森林組合に配布予定

●保健所における取り組み

狩猟免許更新講習受講者等に対する SFTS に関する講話や、建設安全推進大会、ジビエ講習会、狂犬病予防注射集団接種会場等でのリーフレット配布など、通年で啓発活動を実施。

●県ホームページでの啓発・注意喚起

<掲載内容>

- ・ SFTS の概要
- ・ 県内の発生状況
報告数、死亡者数、年代別報告数(令和5年度～)、地域別発生数(令和5年度～)
- ・ 全国の発生状況
- ・ 感染経路・予防策



宮崎県

緊急情報

くらし・健康・福祉 | 防災・安全・安心 | 観光・魅力 | 教育・子育て

トップ > くらし・健康・福祉 > 保健・健康づくり > 感染症対策 > 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)に関するお知らせ

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)に関するお知らせ

重症熱性血小板減少症候群(Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome: SFTS)は、2023年の感染症発生動向調査において県内で**12件**の報告がありました(2023年8月6日現在)。

2013年3月の届出開始以降、累積報告数は**109件**で全国で最も多くなっています。

この感染症は、マダニに咬まれないようにすることが最も重要な感染予防対策です。

マダニは、春から秋にかけて活動が活発になります。

野外活動の折には、しっかり予防対策を行い、マダニに咬まれないようにしましょう。

●市町村における取り組み

広報誌やホームページでの啓発、介護予防教室や高齢者クラブでの SFTS に関する講話、シルバー人材センターや百歳体操参加者へのリーフレット配布など、通年で啓発活動を実施。